

れ9-12(11) mmと11-14(12) mmの中間と見られる形のものがあったが、ほかではそうした例をまだ見ていない。また、それぞれの小穂につく花の数は普通は5-10で、20以上をつけることが多いハマスゲより少ない。こうした小穂の性質以外には、トサノハマスゲをハマスゲと区別する差異はないから、トサノハマスゲはやはりハマスゲの変種と考えてよいものであろう。

吉永が高知のどのようなところで採ったかは明らかでなく、大井(私信)も、その当時くわしいことを聞いた記憶はないがなぜこの形のものが土佐にだけあるのだろうか、と言っている。その後、トサノハマスゲは、ここでふれたように、高知市に隣接する伊野町と春野町にもあることがわかってきた。高知市ではほかに八反町と北端町の市街、住宅の空き地などに、伊野町では枝川と伊野の道路ぞいや堤防にもあり、春野町では川原の砂地に生えている。生育環境にハマスゲと異なるところはないからときに混生するが、トサノハマ

スゲだけが集団をつくっていることが多い。なお、花期はおもに6~11月で、ハマスゲとおなじである。

これまで、おもに西日本のほかの地方でも気をつけて観察し、また各地の植物誌にもあたってみたが、ハマスゲの分布が広いにもかかわらず、トサノハマスゲはまだ高知県の狭い範囲にしか生育地がわかっていない。

*Cyperus rotundus* L. var. *yoshinagae* (Ohwi)  
Ohwi in Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. B, **18**:  
131 (1944).

*C. yoshinagae* Ohwi in J. Jpn. Bot. **13**: 332 (1937).  
Hab. Japan. Shikoku, Kochi Pref., Atagomachi in  
Kochi (T. Yamanaka, Sept. 12, 1965, TI, TNS,  
TUS), Asakura in Kochi (T. Yamanaka, Sept. 10,  
1974, TI, TUS), Ino (T. Yamanaka, Sept. 27, 1995,  
TI, TUS), Haruno (T. Yamanaka, July 7, 1964, TI,  
TNS, TUS).

(高知市 [REDACTED])

### フチゲオオバキスミレとケエゾキスミレの学名 (中井秀樹<sup>a</sup>, 五十嵐 博<sup>b</sup>, 大橋広好<sup>a</sup>)

Hideki NAKAI<sup>a</sup>, Hiroshi IGARASHI<sup>b</sup> and Hiroyoshi OHASHI<sup>a</sup>: *Viola brevistipulata* var. *ciliata* and var. *yezoana*, nom. nov. (Violaceae)

ケエゾキスミレを含むエゾキスミレ(広義)がオオバキスミレ *Viola brevistipulata* の亜種として扱われて以来(渡辺, 1961), フチゲオオバキスミレとケエゾキスミレとは共に *V. brevistipulata* の下で var. *ciliata* あるいは f. *ciliata* という形容語 epithet を持つことになった。国際植物命名規約(東京規約, 1994)の規定では、同一種内の2つの種内分類群の学名は、異なる階級であっても、同じタイプに基づくものでなければ、同名として取り扱われる(第24条付記2, 第53.5条および実例14)。したがって、ケエゾキスミレの形容語 var. *ciliata* は後続同名となり非合法である(第45.4条, 第53.1条)。

故豊国秀夫博士は「日本の高山植物」(山と渓谷社, 1988)の中で上述の理由から新名 *V. brevistipulata* subsp. *hidakana* var. *yezoana* を用意しているが、非合法名であった。その後豊国博士の逝

去により var. *yezoana* は正式出版をされないままになっていた。最近、いがり氏は、「日本のスミレ(山溪ハンディ図鑑6, 山と渓谷社, 1996)」の中で *V. brevistipulata* subsp. *hidakana* var. *yezoana* S. Watanabe (p. 242) という学名を非合法名として紹介した。そこで、われわれは改めてケエゾキスミレの正名として *Viola brevistipulata* subsp. *hidakana* var. *yezoana* Toyokuni ex H. Nakai, H. Igashira & H. Ohashi を新名として発表する。なお、フチゲオオバキスミレとともに学名と原典引用を整理した。

*Viola brevistipulata* (Franch. & Savat.) W. Beck. in Beih. Bot. Centralbl. Abt. 2, **34**: 265 (1916), & op. cit. **36**: 50 (1918).

subsp. *brevistipulata*

var. *ciliata* M. Kikuchi in Ann. Rep. Fac. Lib. Art. Coll. Iwate **1**: 79 (1950).

*V. brevistipulata* var. *brevistipulata* f. *ciliata* (M. Kikuchi) F. Maekawa in Hara, Enum. Sperm. Jap. **3**: 198 (1954).

Nom. jap.: Fuchige-ôbakisumire. フチゲオオバキスミレ

Distr.: Japan. Hokkaido, Honshu (Aomori, Iwate & Miyagi Prefs.).

subsp. *hidakana* (Nakai) S. Watanabe in Acta Phytotax. Geobot. **19**: 27 (1961).

*V. hidakana* Nakai in Bot. Mag. Tokyo **36**: 30 (1922).

*V. brevistipulata* var. *hidakana* (Nakai) S. Watanabe [ex Ohwi, Fl. Jap. rev. ed. 925 (1965), comb. nud.] ex T. Shimizu, New Alp. Fl. Jap. **1**: 313 (1982), nec sub ssp. *hidakanae*.

var. *yezoana* Toyokuni [Alp. Flow. Jap., 320 (1988), nom. nud.] ex H. Nakai, H. Igarashi & H. Ohashi, nom. nov.

*V. hidakana* Nakai var. *ciliata* Nakai ex Tatewaki in J. Sapporo Soc. Agr. & For. **26**: 281 (1934), cum clavi jap.

*V. hidakana* f. *ciliata* (Nakai ex Tatew.) S. Watanabe in Acta Phytotax. Geobot. **17**: 27 (1957), in adnota; Toyokuni in J. Geobot. **7** (2): 38 (1958), cum diagn. lat.

*V. brevistipulata* subsp. *hidakana* var. *ciliata* (Nakai ex Tatew.) S. Watanabe in Acta Phytotax. Geobot. **19**: 28 (1961).

*V. brevistipulata* var. *ciliata* (Nakai ex Tatew.) S. Watanabe: T. Shimizu, New Alp. Pl. Jap. **1**: 184 (1982), nec sub ssp. *hidakanae*.

Nom. jap.: Ke-ezokisumire. ケエゾキスミレ

Distr.: Japan. Hokkaido, Hidaka range.

(<sup>a</sup>東北大大学院理学研究科生物学教室,

<sup>b</sup>(有)ムーヴ植物設計)